

社会福祉経営



2024年8月20日 通番 14号

発行、一般社団法人 社会福祉経営全国会議 大阪支部
大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902
☎06-6772-1360
fax06-6772-1376
Mail f-zenkoku@f-osaka.net
責任者、叶原生人



「社会福祉法人経営交流会」開催！ 「施設における苦情対応」について

—共通の事例・個別の事例などを交流しました。「学びが深まった！」との声—

社会福祉経営全国会議 大阪支部
事務局長 福井 茂



2024年8月8日(木)暑さ厳しい日、「苦情対応について」をテーマに43名ものたくさんの方に参加いただき開催しました。ご参加いただき、ありがとうございました。

まず、高齢・障害・保育の三分野より具体的な事例報告をいただき、三分野での共通事例や分野独特の事例など、学びが深まる内容となりました。交流では、参加者から事例報告を聞いての感想や質問、自法人、施設での事例も紹介され、予定していた時間では足りないほどのおもいがあふれる交流会となりました。

次回は、2月5日(水)14時～16時半で予定しております。内容等については、役員会で討議予定としております。交流会のテーマについて、ご希望がありましたら、大阪支部までご連絡をお願い致します。

◆法人経営交流会「施設における苦情対応」感想

大阪あゆみ福社会理事長 國本依伸

2002年に弁護士登録して以来、様々な医療福祉機関から利用者とのトラブルについて相談を受けてきました。昨年6月に大阪あゆみ福社会の理事長に就任し、今度は当事者として保育園特有の課題に直面する経験をしました。

弁護士のもとへ辿り着くまでに福祉関係者が大きなダメージを被ることだけは何とか避けられるようになって欲しいと現時点での認識の言語化を試み、今年6月に自身のブログに掲載しました。(下記参照) 交流会で各法人から報告された諸経験とご苦労は、正直想像以上でした。しかしながらブログにも書いていたところが多く、社会福祉経営全国会議に結集されている法人は堅実だという印象を改めて強くしました。なかでもGoogleマップ等に悪評を書き込まれた際に別の利用者たちがそれを打ち消す書き込みをしてくれたという報告は、社会福祉法人ならではの実践だと感じました。

それら報告を聞いていて、大阪支部の皆さんと一緒に是非学んでいきたいと思う課題もありました。まず、私たちが偏見を持たずかつ適切な対応ができるようになるために然るべき講師を呼んで精神医学の研修を行うことです。また、トラブル発生時に直ちに現場から法人本部に報告や相談が入る法人では、どのようにしてそのような風通しの良さが形成されたのかを学びたいと思いました。そして、日本社会全体として福祉のサービスが進められていくからこそ、利用者及びその家族と共に福祉を作り実践する運動によって対抗する具体的な方策を引き続き皆さんから学んでいきたいと思っております。

(事務局注、ブログのURLは下記に掲載しています。ぜひご覧ください)

<https://note.com/yorinobu/n/n7a76590c260c>

<https://kunitomo-law.com/blog/6175500>



2024/11/29 エル大阪 開催 大阪支部 社会福祉経営研究交流会の 取り組み報告！

7月10日(木)に第2回実行委員会が開催されました。会議では「テーマ」案が検討され、記念講演の講師の人選もされました。午後の分科会は、主なテーマとして「地域との共生」「次世代の管理職育成」「保護者・家族との共同のとりこみ」「3分野の実践報告と交流」「夢と現実を語り合おう、社会福祉経営」の5つをメインに論議されました。どれも、今の社会福祉が抱える大きな課題として、参加した実行委員の方からは「元気になるテーマだ」「具体化するのワクワクする」などの感想が寄せられました。

記念講演: 作家・関西大学客員教授 岸田奈美氏

※記念講演は11月29日の午前に計画されています。

岸田奈美氏

作家、エッセイスト、関西大客員教授。神戸市出身。2020年世界経済フォーラムが任命する、「組織・グローバルシェイパーズ」に選出される。2023年5月、初エッセイ『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』を元にした連続テレビドラマがNHK BSのプレミアムドラマ枠にて放送。7月9日からはNHKで地上波でも放送される。

説明文はウィキペディアより一部、引用。
写真は同氏の「X」の中から。



「ワクワクするぜ！社会福祉経営研究交流会」

－委員の自己紹介－

◆たくさんの人と学び合える研究交流会に

社会福祉法人 いずみ野福祉会 第三岸和田作業所 毛下典子

私は同友会の時代に第2期の管理職養成学校を受講し、第4～6期の養成学校の事務局として多くのことを学ばせていただきました。今回は大阪支部の研究交流会の実行委員という貴重な体験をさせていただいています。

1回目の実行委員会から初顔合わせとは思えないほど活発に意見を出し合い、「元気になる・ワクワクする・つながりあえる」研修にしていこうという思いを共有することができました。これまでの3回の会議でテーマや記念講演、分科会などの内容を検討してきました。毎回、内容の濃い、積極的な議論に学ばされることばかりです。

参加される皆さんがワクワクし、多くの人とつながり合える研究交流会になるように準備を進めています。11月29日、たくさんの方と学び合えるのを楽しみにしています。

◆元気がもらえる交流会に

社会福祉法人 ひびき福祉会 サンプライスひびき 山内崇洋

今回、実行委員をお受けするにあたり本当に自分で大丈夫であろうかと不安もありましたが、分野は違えども皆さん管理職養成学校の卒業生でもありこれぞ大阪というパワーを感じながら楽しく参加させて頂いています。思い返せば自分が管理職養成学校を受講したのは2021年度で全国会議としては初めての実施という事でしたが、保育・高齢・障害と同じ福祉でも普段あまり関わり合いがない方たちと、しかも全国から集まり学び合う経験ができたことは自分にとっては今では大きな財産となっています。

さて、7月30日に行われた実行委員会も3回目となりテーマや講演会の講師、分科会の内容など一気に絞り込みながら詰めていく段階となりましたが、まだまだアイデアは尽きそうにありません。開催に向けての議論も盛り上がりつつも着地点を見失いそうになることも多々ありましたが、他の実行委員の皆さんのプレゼン能力に圧倒されつつも大阪らしく面白いものになりたいという思いのもとで一丸となっています。開催に向けての準備期間も限られているなかで講師依頼や分科会のレポートの準備、何よりも初めての開催という事で実際にどれだけの人が参加頂けるのか不安や課題もまだまだありますが、当日参加された皆さんには楽しく学びながら元気がもらえる交流会になることをお約束するとともにお会いできることを楽しみにしております。

がんばれ 能登!

能登半島地震 被災地視察、支援活動を通じて見たこと、考えたこと — 復旧支援活動に参加報告 ③ —

社会福祉経営全国会議 事務局 横山ちえみ



◆国・県の責任で復興を急いで

最後の日は、羽咋市の能登半島被災者共同支援センターとの懇談に同行しました。センターでは被災された方や地域の現状や要望を聞き出し、各地域の区長さん、町内会長さんと協力して特に孤立しているところへ必要なものを確実に届けるようにしているとのことでした。断水しているところも多く、水・米の要望が高いためボランティアが各拠点へ物資を運び出していました。わたしたちからは障害者や高齢者には個別の対応が必要なものもあり連携をしていきたいと伝えました。また、奥能登に近い穴水町に拠点を開設して支援活動を広げ、国・県に実質的な被災者支援を要望しているとのことでした。

その後、公費解体をする住居の片付けの支援に合流するため志賀原発の看板を左に見ながら向かいました。障害児支援で相談があり、家族だけでは片づけるのが困難とのこと、仮設住宅には必要な荷物は移動しましたが、大きな日本家屋であり残った荷物がかかり多く一緒に整理をしました。支援の障害児の兄弟も障害手帳を持参していることが今回の支援で始めてわかり、祖父母も同居する大所帯で壊れた家財や荷物も多く、数日かかる状況でした。

帰阪して間もなく1か月経ち、道路は少しずつ補修され通行止めが解除されてきたようですが、家屋や建物は倒壊したままで、漁業・農業も再開の見通しができてない状態です。

◆住民の命と暮らしを支える福祉施設をめざして

3月上旬に福祉避難所の状況を知るために奥能登2市2町に問い合わせをすると、「39か所の施設を福祉避難所として指定しているが、実際の開設状況は窓口業務で追われており把握が困難」とのことでした。輪島市内の介護施設ではボランティアの力も借りて福祉避難所を開設していましたが、長引く断水や被災して休職している職員も多く、被災者の受け入れが困難となりやむなく閉じたと聞きました。通常でも日常の支援、業務で手一杯の状況です。この間の大きな災害の教訓を生かしていない政治の貧しさに怒りが湧いてきます。

国は総力で被災地の復興に急いでほしい。

能登の窮状が解決されない中での軍事拡大、原発・万博・カジノの推進は果たして必要なのでしょうか。



※3回に分けて行いました「能登地震」復興支援の報告は、今回で終わります。この間も多くの方から「能登支援募金」をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

能登地震後も、各地での豪雨、宮崎や神奈川の地震など天災が立て続いて起きています。そこでは多くの人命が失われ、たくさんの住民の暮らしが破壊されています。私たち福祉に関わるものとして、利用者・家族、また職員の生活を守りつつ、地域の住民との共同や相互支援関係を強め、災害に対応していく必要があります。そして国などに対して国民の生活保障の要求をより強固にしていく必要もあるのではないのでしょうか。(A)

2024年度 「秋の大運動」の取り組みについて (ご案内)

2023年度創設された「こども家庭庁」。それまで社会福祉を統括していた厚生労働省から切り離されて独自性あるシステムのもと、現場の保育園などは次々出される施策に戸惑う感があります。

2024年度は9月15日の「スタート集会」を開き、恒例の『秋の大運動』が開始されます。

「大運動」の事務局会議が8月7日に開催され、各団体・組織から取り組みが報告されました。

各団体からは府下の自治体の取り組みや対市町村の要望書づくりの活動、保護者活動も報告され、大阪支部からは保育部会の取り組みや「副園長・主任交流会」の計画などが報告されました。

2024年度 スタート集会 9月15日(日) 10時~12時 会場、たかつガーデン (ハイブリッド)

元気でっせ！大阪 -大阪支部ブロック活動報告-

大阪市内ブロック
市内の法人代表者での
会議を予定している。

北河内ブロック
9月にブロック交流
会を計画。



中河内ブロック
9/11 学習会を予
定。年内には法人代
表者会議を計画。

北摂ブロック
9/24 ブロック法人担当者会
議を予定。ブロック内の法人を
回って、見学会を兼ねた交流
会をしたい。

南河内ブロック
7月23日にブロック内の法人で会議を持
つた。今後も隔月ぐらいで施設見学などを行
いたい。

泉州ブロック
近いうちにブロック
内の法人交流会を持
とうと計画している。

◆関西ブロック世話人会議報告

8月8日 全国会議の役員と関西ブロック内の各府
県の「世話人」による会議が行われました。

全国会議は会長の茨木氏と関西が地元の理事各
氏ら3名。各府県からは兵庫、京都、滋賀・奈良・和歌
山の世話人さんが参加しました。

兵庫や京都ですでに独自の府県内での「交流会」
を実施か計画されていて、滋賀・奈良・和歌山でも交
流の場の必要を確認されました。

- 「元氣」は広がり！、手をつなぎ！ -

会議では「経営懇」や「きょうされん」等の、各分野
の活動の発展や参加促進を踏まえながら、3分野や
各府県を超えてつながっていくことの大切さを確認
されました。

全国会議の役割でもある「一人にさせない」「横の
つながりを大切にする」ことを重視し、活動の可視化
の大切さも話されました。ブロック会議は次回、2
025年1月に予定されています。

♡全国会議 研修のお知らせ

● リバイバル研修 8月末までの締め切り

- ① 社会福祉制度(その1・その2)

7/22・7/31 実施分

参加申込み <https://forms.gle/j4QATkcuzpnPe7dW8>

- ② 2024 骨太方針研修

7/25 実施分

参加申込み <https://forms.gle/iXU3eq5pYn7dsZdUA>

●財務管理研修

9/12 (基礎編) 10/17 (応用編) 参加申込み

<https://forms.gle/ZAb92mbGQZo6dZ7W8>

▲2024 経営職養成ゼミナール

2025.1.23~25 (ただし、会員法人対象) 申込み

<https://forms.gle/aMqvTmbsmvCCZkhz6>

会ホームページからも申し込みことができます。



Fubako

夜の暑さはましになってきましたが、日中はまだまだ暑いです。

熱中症アラートが毎日出るので、せमितりに行けず、条件によってはプールに入れない場合も…夏の楽しみが地球温暖化によってできない日があるなんて…と悲しい限りです。

さて、夏だからといってぼ～っとはできません。9月に法人内の管理職研修があります。中長期計画を立てようというもので、地域のチームでSWOT分析を一緒に考えました。複数でやると、色んな言葉が飛び交うので視野も広がり考えるきっかけをもらえます。

話は防災のことや戦争が終わらず、また違う国で戦争が起こり…負の連鎖だねとか、物価高騰、人材確保難しいよね…など脅威はたくさん出てくるのですが、なかなか強みは出てこず…でも「私たちやってる実績はあるはず！それを言語化できてないだけと思う！」と励ましあいながらしました。さて、どんな風に仕上がるかな…。

こぼと会 津田亜矢子